

**知っていますか？
地域の行事に消防団**



地区運動会で消火器の使い方を説明



公民館まつりを盛り上げるために出店



ダンスで親しみやすい消防団をPR



魚つかみの準備でも活躍

消防団とは
消防団は、地域の住民で構成される団体で、団員は非常勤特別職の地方公務員です。
火災などの災害発生時には現場へ駆けつけ、その地域での経験を生かした消火活動や救助活動を行います。
可見市では約320人の団員が、16の地区に分かれて活動しています。

近所のあの人も・・・
市内に住んでいる人や市内で働いている人が参加しているため、地域の状況に詳しく、いざという時に地域に必要な活動を展開することが可能です。
普段は会社勤めや自営業など本業の

仕事をしており、それぞれができる範囲で参加しています。
皆さんの近所で暮らすあの人も、消防団で活躍する団員かもしれません。

消防団はどんな活動をしているか
〈災害発生時〉
火災時の消火活動だけでなく、災害時の避難誘導や人命救助、行方不明者の捜索なども活躍しています。
また、大雨や台風などによる風水害が発生したときには、土のう積みや地域の巡回、近隣住民への避難勧告など水防活動も行っています。
〈平常時〉
災害などに対応できる「つうじ」口頭から訓練や講習を受けています。

また消防車両や消火設備などの点検、火災予防など防災に関する啓発活動、公民館まつりなど地域行事の警備なども行っています。

消防団に参加するのは男性？
消防団の活動内容には女性ならではの活動も多く、全国でたくさん女性の団員が活躍しています。
可見市でも女性消防団を結成し、今年12月から活動を開始しました。

消防団だからできること
災害時の対応や普段からの防災活動、個人でできることもありますが、消防団だからこそのこともあります。行方不明者の捜索には人手が、ポン

プ車の操作や放水作業には訓練が必要です。地域の中でその役割を担っているのが消防団です。
消防団員は、地域の中で自分たちに何ができるかを考え、消防団活動を選んで活躍しています。

私たちがしたいこと
ただ、消防団がすべての災害・防災に対応できるわけではありません。
地域に住む私たちも、消防団がいるから安心するのではなく、自分たちができることを考え、いざという時に備えておくことが必要です。
そして、大切な家族や地域を守るために、消防団に加わってあなたの力を生かすことも考えてみませんか。



地域で活躍する消防団

南海トラフ地震、
局地的な集中豪雨、
これから発生件数の多くなる火災、
災害は他人事ではありません。

人々の防災への関心が高まっている中、改めて
地域防災の要として消防団の存在が重要視されています。

今回は、災害時に留まらず、地域で活躍する
消防団について紹介します。

知っていますか？ 消防団の活動



救急救命講習で、いざという時も冷静に対応



操法大会で訓練の成果を披露



河川からの水の汲み上げ訓練



地域の子も達と一緒に夜の見回り

問合せ先 防災安全課

消防ウオッチ

～ホントはどんなところなの？～

なんとなく「忙しい」「お酒ばかり飲んでいる」というイメージを持っている人が多い消防団。そこで、実際に消防団で活躍している第3分団第1部（春里北西部）の皆さんに話を聞いてみました。消防団での体験や活動をのぞいてみましょう。



^{たかのり}
奥村 高德さん
班長

厳しさと楽しさが両立

可児市に引っ越してきた際に声をかけられたのが縁で入団しました。団員として経験を積み、今年から班長を務めています。

消防団には「酒ばかり飲んでいる」「拘束時間が長い」と悪いイメージを持っている人が多いようです。今はそれぞれの仕事を優先していますし、お酒を無理に勧めることもありません。昔とは随分変わったと思います。

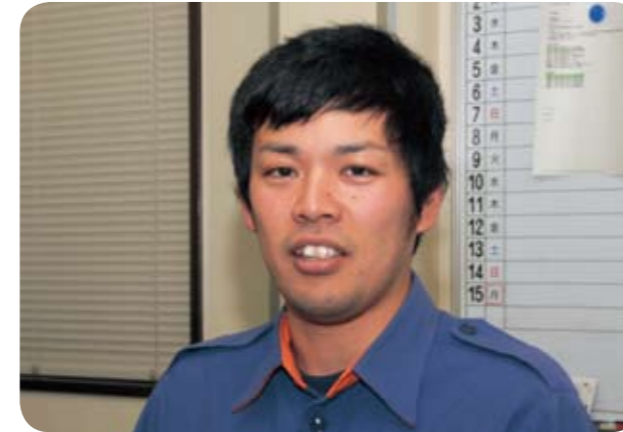
私たちの団は仲が良いのですが、ただ楽しく過ごしているということではありません。

防災に関わる団体ですから、活動中に怪我をすることもあり得ます。そのため、安全に活動するために行う訓練など厳しいところもあります。

そんな中で、楽しい活動も厳しい活動も一緒に過ごすからこそ、団員同士の絆が深まっていると思っています。

また消防団には様々な職業の人が入団しますから、普通なら会うことのない人と仲間になり、刺激を受けることも多いです。そういう縁に恵まれるのも、消防団の独特の魅力ですね。

いいところは、入ってみたいと実感できません。「やってみて良かった」という団員ばかりなので、ぜひ仲間になってください。



^{きよし}
石川 恭志さん
団員（入団2年目）

味わった達成感

入団していた先輩から誘われたのがきっかけで入団しました。

消防団の活動内容については知らなかったのですが、実際にやってみると、火事だけでなく、台風や人探し、夏祭りや運動会にも出動するなど、地域に深く関わっていることに驚きました。地域行事ではテント設営など力仕事もあるので、消防団は頼りにされています。

毎年春に操法大会（※）があり、その訓練期間は大変でした。それでも誰一人欠けることなくやり抜いて、今年は市内2位という結果を残すことができて、達成感を感じています。

社会人になると、皆で何かをやり遂げる機会が少なくなります。仕事やお金が絡まない取り組みで、達成感を味わうことができるのは貴重なことです。

学校と違って、消防団は同期でも年齢や就いている仕事は違いますが、楽しさや苦しさを共有して、皆が一体感を持っています。ここで知り合った仲間は一生ものだと思います。

※消防車・機器などを使って、放水により標的を倒すまでの時間と操作技術を競う大会。



加藤 俊輔さん
団員（入団1年目）

仲間づくり

以前は市外に住んでいたのですが、そこでは消防団に誘われたことがなく、どのような活動をしているのかも知りませんでした。

可児市に引っ越してきた際に、自治会から入団の要請がありました。活動について説明を受け、これから地域で暮らしていく中でよい経験になると思ったので、自分から手を挙げて入団しました。

消防団では、消火活動などの大変さが印象に残りました。活動を通じて、防災への備えなど自分のできることを自分でやるのが大切だという気持ちが強くなりました。

また私は地元の出身ではないため、地域に同年代の知り合いがいませんでした。消防団に入団して同年代の団員と知り合い、仲良くなったのがうれしかったです。